

## 2 荒廃森林再生事業に関わる追跡調査（H20～）

宮崎 潤二

### 1 目的

木材価格の低迷等により、適切な森林整備が行われず荒廃森林が増加している。このような状態が続けば、土砂災害の防止等森林の持つ公益的機能が損なわれることが危惧されている。このため、手入れがされず荒廃した人工林を対象に、平成20年度から森林環境税を活用して、針広混交林へ誘導し森林の持つ公益的機能を維持発展させる事業が始まった。

そこで、事業実施箇所のその後の植生等について追跡調査を実施し、事業効果の判断資料を収集する。

### 2 試験地の概要

試験地の概要について表-1に示す。なお、試験区Fu-1、To-1については平成21年度に新規追加した箇所である。

表-1 試験地の概要

試験区	場所	標高	斜面方位	傾斜度	斜面位置	間伐時期
Ku-1	唐津市厳木町大字平之字戌亥ヶ倉	550m	北西	45°	尾根部	H21.3
Ku-2	〃	500m				
Ni-1	西松浦郡有田町大字山本字岳	350m	南	18°	山腹中部	H21.3
Ni-2	〃			13°		
Ta-1	藤津郡太良町大字御手水	150m	西	18°	山腹上部	H21.2
Fu-1	佐賀市富士町大字大串字二本黒木	650m	南	25°	山腹中部	H22.3
To-1	鳥栖市河内町小原山	300m	北西	32°	山腹上部	H22.3

### 3 調査プロット及び詳細調査プロットの概要

#### (1) 調査プロットの設定

調査プロットは20m×20m（400m<sup>2</sup>）とした。また、Ta-1及びFu-1では、後述の土砂受け箱を設置する定点を設けた。

### 4 調査方法及び結果の概要

#### ① 林床の移動土砂量の調査

Ta-1、Fu-1の2試験区において、林床の移動土砂量の測定を実施した。1試験区内に8～10個の土砂受け箱（写真-1）を平成22年秋に設置し、定期的に箱内に堆積した土砂等を回収した。回収した土砂等は風乾した後、細土、礫、有機物に分類して重量を計測した。これらのデータを数年以上蓄積後に解析することにより、林内の土壌浸食強度を推測する予定である。

また、同規格の土砂受け箱25個を新たに製作した。製作した土砂受け箱は、来年度に設置予定である。



写真-1 土砂受け箱の設置状況

## 5 今後の調査計画

今後は、試験地の新設、主林木等の林分調査、林内相対照度の測定、下層植生の調査等について森林整備課が実施を予定しており、必要に応じて助言・協力していきたい。